

# 市川を調べる

編集 市川を調べる会(会長:星 一郎/事務局:木村隆一)  
発行 八戸市立市川公民館(館長:氣田 武男)

【お知らせ】 広報紙「市川を調べる」の各号がインターネットに掲載されています。  
※「市川を調べる会」にアクセス。(または、八戸市立市川中学校)

## 下市川小學初代校長 林 忠 蔵 【Ⅱ】

轟木下 木村 隆一

### 1. 林忠蔵の子どもたち

前回:⇒林忠蔵が会津若松で誕生し、藩が**戊辰戦争**に敗れた後は、**斗南藩**の下北や岡三沢を経て浜市川の橋向に定住。その後**願叶庵**で寺子屋を開く。明治8年10月29日に開校した**下市川小學**(現在の多賀小学校)では、初代校長として子どもたちの教育に情熱を注いだことを記した。今回は、主として4人の子どもたちについて述べる。

★**長男:林八十治**(嘉永6年:1853年、正月6日に生まれる。)名は**光芳**。10歳で藩校の**日新館**に入学。11歳で中国の古典である**四書**(大学・中庸・論語・孟子)**五経**(易経・書経・詩経・礼記・春秋)の素読を終える。弓術や剣術にも優れていた。また、詩も好んで作り、毎年受賞。両親の優れた指導あり。

戊辰戦争では、**慶応4年8月23日**に**白虎隊員**として出陣。戸ノ口原の激戦で負傷し、**飯盛山**に後退。そこから見える城下町の煙を**鶴ヶ城**炎上(落城)と見誤り、もはやこれまでと隊員19名と共に**自刃**。享年**16歳**。

★**二男:林茂樹**(安政5年:1858年生まれ)父、林忠蔵・下市川小學初代校長の後任として明治14年に二代校長に就任。この時24歳。明治32年に一旦退任。この間の明治19年1月には下市川小學を「**多賀尋常小学校**」と改名している。林茂樹校長がなぜ**多賀**という名称にしたかについては記録も伝聞もなく、定かではない。今後の解明が待たれるところである。(これに関する情報があれば「市川を調べる会」、または市川公民館までご連絡下さい。)

明治27年3月3日には、三戸村:大庭恒治郎の姉「よし」と結婚。明治36年には第五代校長として再度就任し、明治43年まで勤務。合計25年の長きに亘り校長として地域の教育に貢献した。

★**三男:林興子**(文久2年:1862年生まれ) 明治15年に市川村の大地主・三浦儀助の三女「とみ」と結婚。同年に20歳で切谷内小學の校長、その後上市川小學の校長。明治26年には上市川村の村長に就任。その年、現職のまま急死。長男**健**は、多賀・剣吉・五戸の各校長を務めた後、昭和18年には15代市川村長に、その後八戸市議に当選。

★**四男:梧楼**(明治4年:1871年生まれ) 明治25年に五戸:三浦鉄蔵の養子になる。その子が茂雄。孫は光夫で、三代にわたって教育にたずさわった。

### 2. 林家の菩提寺は願成寺

現在の林家の墓地は願成寺本堂左裏手にある。ここにはかつて林忠蔵・妻・興子・茂樹等一族の墓があり、特に校長を25年間務めた茂樹の墓碑裏には、木村亀之助等32名の名前が彫られており、これは薫陶を受けた教え子たちが



林家の菩提寺【市川山・願成寺】

↑ 建立したものと思われる。(現在は撤去されている)

#### 参考

- 「流れる五戸川」
- 「会津藩 斗南へ」
- 「なみおと(多賀小120周年記念誌)」
- 「白虎隊事跡」
- 「白虎隊勇士列伝」
- 「飯森山自刃者名簿」

